

第1章 成田市の概要

1. 位置

本市は千葉県の北部中央の北総台地に位置し、北は神崎町、利根川を隔てて茨城県、西は栄町、印旛沼を隔てて印西市、南は酒々井町、富里市、芝山町、東は多古町、香取市に隣接しています。面積は213.84 km²（県下6位）で、県土の約4.1%を占めています。

位置	極東	所字北割地先	東経	140度28分21秒
	極西	北須賀字中外埜地先	東経	140度14分57秒
	極南	南三里塚字東地先	北緯	35度43分24秒
	極北	小浮字流作地先	北緯	35度54分09秒
面積	213.84 km ²			
広ぼう	東西	20.1 km	南北	19.9 km
標高	1m（安西地先）～42m（南三里塚地先）			
市役所	東経	140度19分06秒	北緯	35度46分36秒

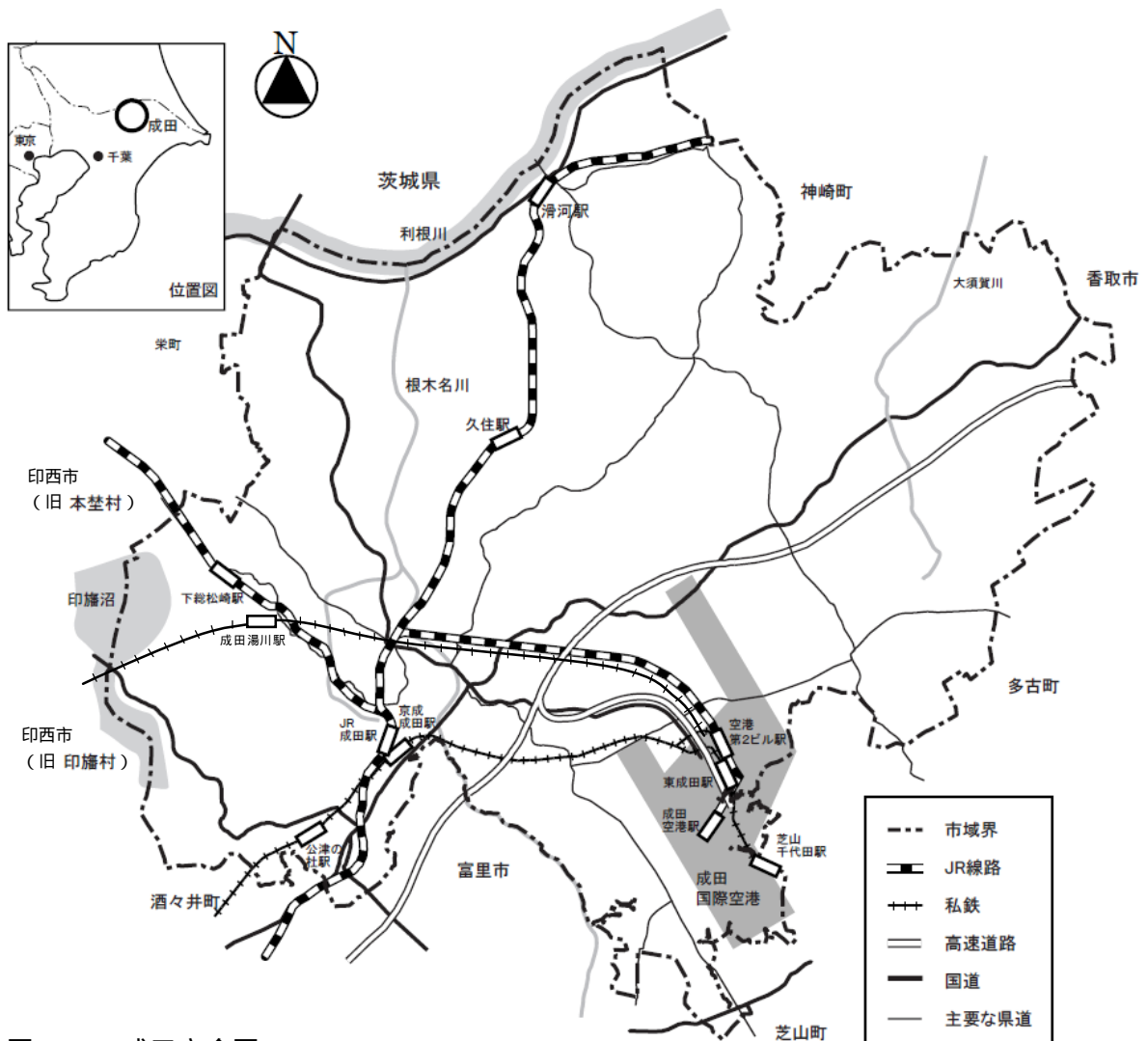


図1-1 成田市全図

2 . 地形と地質

本市の地形は、南東の大栄地区及び遠山地区から、北西の下総地区及び豊住地区と、西の公津地区に向かって低くなっており、東部及び南部の台地と、北部及び西部の平地に大別されます。

最高部は南三里塚地先の標高 42m で、最低部は安西地先の標高 1m です。また、地質はおおむね赤褐色の関東ローム層で、次いで黄褐色の砂層と小砂利混じりのいわゆる成田層で形成されています。

この成田層は、洪積世（約 10 万年前）にまだ成田市が古東京湾と呼ばれる鹿島方面に開いた内湾の海底にあった頃、長い時間をかけて土砂が堆積してできたものであり、その後数万年前の関東地方一帯の隆起により陸地化しました。

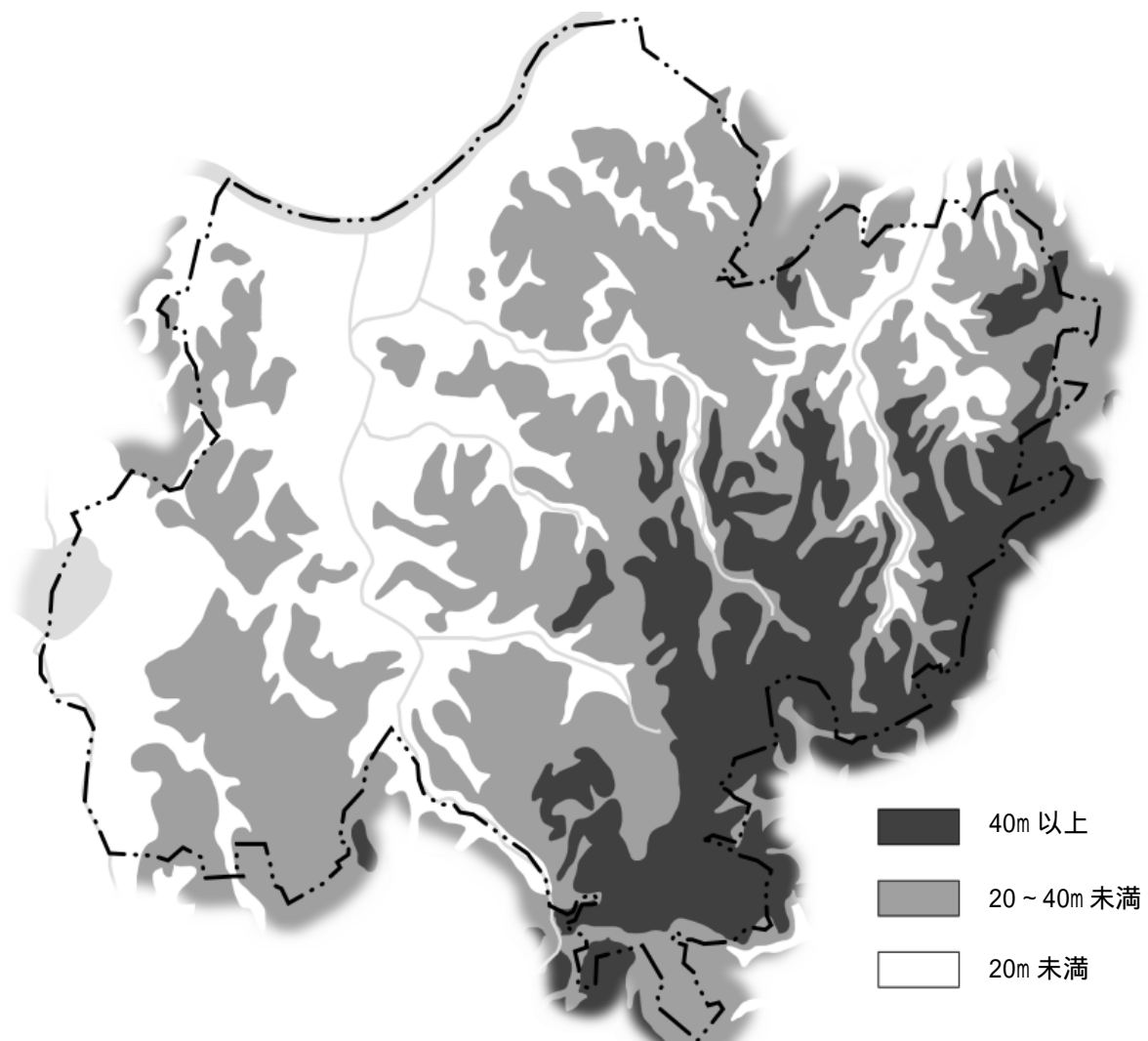


図 1 - 2 地勢等高線図概況

3. 沿革

昭和 29 年 3 月 31 日、町村合併促進法によって、成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村の 1 町 6 か村が合併して成田市が誕生しました。さらに平成 18 年 3 月 27 日には、下総町、大栄町と合併しました。

日本の空の表玄関成田国際空港は、昭和 41 年 7 月 4 日の設置決定から幾多の紆余曲折を経て、昭和 53 年 5 月 20 日に開港しました。

市政施行当時 45,075 人だった人口も、今や 126,345 人（平成 22 年 10 月 31 日現在）となり、かつての田園観光都市成田は、信仰のまちとしての顔と、交通、経済、文化の様々な分野における国際交流の拠点として、国際交流都市の顔を持つまちへと大きく変貌しています。

4. 人口

本市の人口は、昭和 29 年市政施行時の 45,075 人から、約 20 年間は大きな変動が無いままに推移してきました。その後、本市に空港が建設されることが決定され、これに伴う人口増に対処するため建設された成田ニュータウンへの入居が本格的になった昭和 48 年頃から人口が増加し始め、平成 22 年 3 月 31 日現在、126,098 人となりました。空港が開港した昭和 53 年から平成 22 年までの 32 年間で、約 67,000 人の増加を示しています。

表 1 - 1 住民基本台帳人口（各年 3 月 31 日）

年 区分	昭和 30	40	50	60	平成 2	7	12	17	18	22
人口	45,708	43,966	50,691	75,562	84,189	89,842	94,163	98,708	120,534	126,098
世帯数	8,723	9,363	13,672	24,853	29,082	33,626	37,031	41,202	49,134	53,645

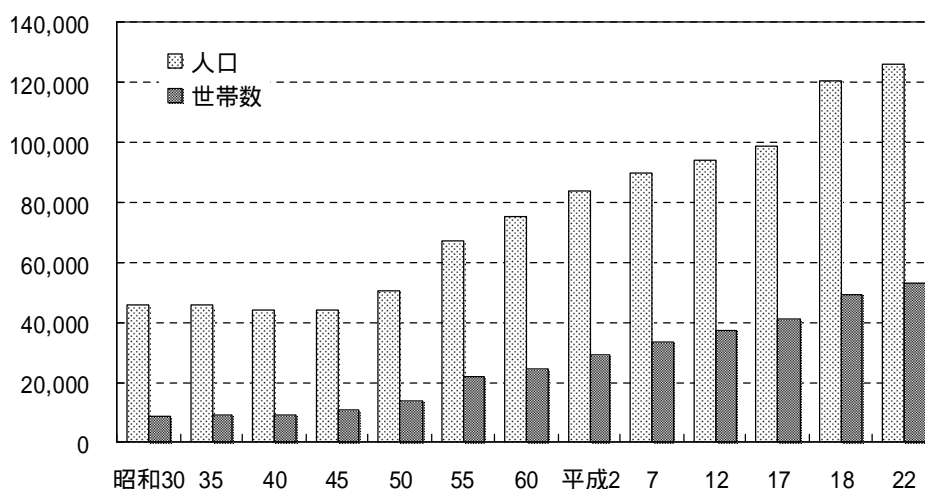


図 1 - 3 人口と世帯数の推移

5. 産 業

平成 17 年の就業人口は、昭和 50 年の約 2 倍に増加し、その 8 割が第 3 次産業に属しています。

昭和 50 年以降、第 1 次産業は就業人口、構成比とも大幅に減少しており、第 2 次産業は、構成比では減少していますが、就業人口は約 3,000 人増加しています。第 3 次産業は、昭和 50 年以降就業人口の増加が続き、平成 17 年には約 26,000 人増加しています。

表 1 - 2 産業別就業人口（15 歳以上 各年 10 月 1 日）

区分・年 産業別	昭和 50 年		昭和 60 年		平成 7 年		平成 17 年	
	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比
第 1 次産業	5,387	21.79	3,488	9.24	2,104	4.37	1,585	3.07
農 業	5,371	21.72	3,476	9.21	2,094	4.35	1,571	3.05
林 業	1	0.01	2	0.01	3	0.01	3	0.01
漁 業	15	0.06	10	0.03	7	0.01	11	0.02
第 2 次産業	4,949	20.02	6,926	18.35	8,035	16.70	8,037	15.58
鉱 業	12	0.05	11	0.03	13	0.03	8	0.02
建設業	1,911	7.73	2,378	6.30	3,163	6.57	2,709	5.25
製造業	3,026	12.24	4,537	12.02	4,859	10.10	5,320	10.31
第 3 次産業	14,312	57.88	27,260	72.23	37,423	77.78	40,945	79.39
電気・ガス・熱供給・水道業	185	0.75	214	0.57	261	0.54	225	0.44
運輸・通信業	2,298	9.29	5,312	14.07	7,463	15.51	8,797	17.06
卸売・小売業、飲食店	5,190	20.99	8,323	22.05	10,917	22.69	11,028	21.38
金融・保険業	600	2.43	855	2.27	1,224	2.54	942	1.83
不動産業	196	0.79	303	0.80	434	0.90	671	1.30
サービス業	4,683	18.94	8,830	23.40	13,601	28.27	15,614	30.27
公 務	1,160	4.69	3,423	9.07	3,523	7.32	3,668	7.11
分類不能の産業	77	0.31	68	0.18	555	1.15	1,009	1.96
総 数	24,725	100.00	37,742	100.00	48,117	100.00	51,576	100.00

国勢調査

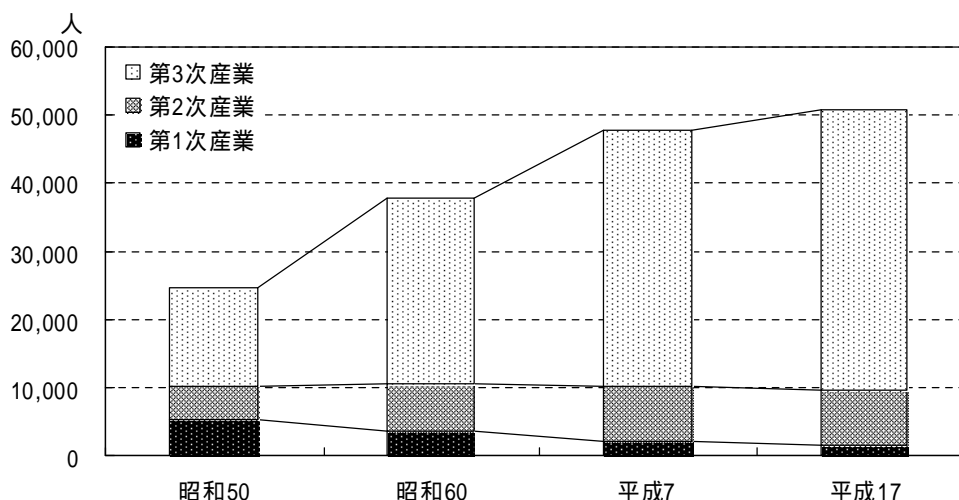


図 1 - 4 産業別就業人口の推移

6 . 土地利用

本市の土地利用状況を概観すると、成田地区、公津地区、ニュータウン地区を中心に市街地が形成されているほか、各地に小規模な農村集落が点在しています。また、南部には昭和 53 年に開港した成田空港、市内 3 か所に工業団地、北東部から南部にかけての丘陵地帯にはゴルフ場が点在しています。北部を流れる利根川及びその支流である根木名川、大須賀川、さらに印旛沼周辺には水田が広がっています。なお、都市計画法における用途地域は表 1-3 のとおりです。

表 1 - 3 都市計画区域面積及び人口集中地区等の面積 (単位：ha)

区分		年	平成 22 年 4 月 1 日	
都市計画区域面積	総面積		21,384	
	市街化区域面積		2,057	
	用途地域別	第一種低層住居専用地域		922
		第一種中高層住居専用地域		296
		第二種中高層住居専用地域		12
		第一種住居地域		659
		第二種住居地域		56
		準住居地域		28
		近隣商業地域		51
		商業地域		73
		準工業地域		55
		工業地域		33
工業専用地域		141		
市街化調整区域		11,070		
非線引都市計画区域		8,257		
人口集中地区面積			2,107 (平成 17 年国勢調査)	
地域面積 農業振興	総面積		17,973	
	農振農用地面積		6,339	
	その他		11,634	

表 1 - 4 地目別面積 (各年 1 月 1 日) (単位：km²)

区分 年	総数	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	池沼	その他
昭和 50	130.50	28.85	20.82	7.07	32.35	6.92	16.58	1.09	16.82
55	130.50	31.33	20.16	11.35	30.46	6.95	27.13	0.82	2.30
60	130.50	30.69	18.56	12.38	28.85	6.33	31.15	0.82	1.72
平成 2	131.28	29.61	18.82	13.54	26.87	5.28	26.76	0.45	9.95
7	131.27	28.18	16.88	15.01	24.49	4.41	31.59	0.43	10.28
12	131.27	27.59	15.17	15.52	21.77	3.86	35.49	0.44	11.43
17	131.27	27.10	14.67	16.61	21.13	3.71	38.55	0.51	8.99
18	213.84	44.10	35.17	23.87	41.25	5.56	49.70	0.59	13.60
22	213.84	43.94	34.68	25.10	41.25	5.43	44.37	0.59	18.48

平成 18 年は、旧下総町、旧大栄町を含む。